

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
上賀茂児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	敷村 一元	児童健全育成推進財団 第三者評価室 所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	上賀茂児童館		
施設連絡先	所在地	〒603-8073 京都府京都市北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町 24	
	電話番号	075-706-8524	
施設代表者氏名	館長 細川 みゆき		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 14 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 9 月 17 日～2021 年 10 月 1 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 11 月 19 日		

京都市上賀茂児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している		
1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している		○
2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている		○
2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している		○
【講評】		
法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。		
② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している		○
3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	
1.	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	○
2.	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	○
3.	単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	○
2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	
1.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	○
2.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	○
3.	事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	○
4.	事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	○
3	着実な計画の実行に取り組んでいる	
1.	計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	○
2.	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○

2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
1.	リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	○
2.	事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
3.	子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	○
4.	子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	○

【講評】

社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています

- ① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。
- ② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。
- ③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。
- ④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用方法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		○
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています ① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

【講評】

児童館の情報を広く周知するためにホームページや他施設との連携を活用しています。

- ① 「児童館だより」は小学校で全校配布するほか、地域の方が集まる地元スーパーに配架していただいて、児童館の情報ができるだけ様々な機会に届くように努めています。また、ホームページも活用して積極的な発信を心がけています。
- ② 館のオリジナルキャラクターを設定して、広報の際に随所に登場させて親しみを増す工夫をしています。また、活字にはルビを振って低学年児童でも読むことができるようにするなど、子どもが直接情報を入手できること、気軽さ、来やすさを心がけています。
- ③ 北区はぐくみ室や児童館運営協力会、子育てネットワーク参画団体などとの連携を活用して、相互の情報を発信しあうなど、できるだけ多くの場所で目にしてもらえるよう、様々な機会を捉えて広く情報発信に努めています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

【講評】

子どもが自ら考えて遊ぶために必要な環境づくりと主体的な遊びを支援しています。

- ① 遊ぶ際の最低限のルールは、子どもたち目線で張り紙を掲示して伝えています。遊具の片付け場所も、子どもたちが片づける際に分かりやすい様に図で提示しています。職員は子どもがルールなどを主体的に判断し、その時々状況に応じて自主的に遊ぶことを支援しています。
- ② 毎月「みんな遊び」を企画して、参加したい子ども全員で遊んでいます。「みんな遊び」の内容や遊びのルールは3年生が中心の「3年生会議」で話し合っていて決めており、子ども主体の活動を保障する取組の一つとなっています。
- ③ 4年生以上が対象の「なんでもクラブ」があります。このクラブは「何をやるか」をクラブのメンバーで話し合い、やりたいことを実現できるシステムになっています。これまでお出かけ行事やスライムづくりなどを行っており、子どもの意見を積極的に取り入れる仕組みです。
- ④ 児童館の前が公園という環境です。職員は、児童館来館児童が公園で遊ぶときには、公園に遊びに来ていた他の子どもや地域の方も巻き込んで一緒に遊ぶように働きかけ、子ども同士の交流をすすめたり、児童館の周知に繋がったりしています。こうしたこともあって、公園で遊んでいる一般の子が、ケガや困りごとがあると児童館頼りにして来館するようになっています。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○

	<p>【講評】 子どもの発達過程を理解し、職員会議、担当者会議、介助者会議等の会議で検討し、子どもの支援を行っています。</p> <p>① 子どもの発達過程などについては、京都市や法人本部が実施する研修会に参加して常に情報の更新に努め、子どもの発達段階に応じた行動特性を理解して支援しています。また、区の児童発達支援部会に参加し、意見交流などを積極的に行うことで自治体の児童発達支援に関わる最新の情報の入手に努めて児童館運営に取り組んでいます。</p> <p>② 気になる子どもの支援については、正職員と準職員の担当者会議、介助者会議で検討しています。その際には日誌を手掛かりに、気になったケースを個別に抜き出して話し合いを行います。また、日々の子どもの状況について日常的に職員間で情報共有を行い、職員によって対応に違いが出ないように共通認識のもとで子どもと家庭の支援を行う体制です。</p> <p>③ 判断や対応に苦慮するケースは、京都市児童館学童連盟の統合育成担当の巡回アドバイスを受けることができる仕組みがあり、これを活用しています。客観的なアドバイスを受けることで、職員があらためて対応の見直しを行い、ミーティングなどで共有しながらすすめていきます。</p>														
3	<p>乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr><td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr><td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 様々な場やプログラムを提供して、乳幼児と保護者の子育て・子育ての支援を進めています</p> <p>① 登録制の幼児クラブやあそびのひろば、ランチタイムなどを設定して、乳幼児と保護者の居場所と交流の機会を提供しています。職員は安全の確保やプログラムを提供したり、保護者間で話しがしやすい様にさりげなく橋渡し役を担ったりするなど、子どもと保護者が安心して集い、自然な仲間づくりが進むような支援に徹しています。</p> <p>② 保健師や保育士と連携した子育て講座の開催や、地域子育て支援機関ステーション事業で連携しているこども園の保育士に出向いてもらう相談日などを設けています。保護者が子育てに関わる知識を得たり、専門家に話をしたりすることで、子育てのストレスや不安を解消する一助になっています。</p> <p>③ 感染症の流行前は、近隣の中学校、高校と連携した「乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験」を実施していました。中学校では性教育の一プログラムとして位置付け、学校の養護教諭、区はぐくみ室の保健師と連携して、生徒が命の尊さや保護者の子どもに対する愛情に触れる学びの時間として取り組んでいました。再開可能な状況になった際には、あらためて充実を図り実施することが待たれます。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○														
4	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr><td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p>【講評】 自由来館、放課後児童クラブ登録児童に関わらず自由に遊べるように、関わりのあり方を確認しながら支援しています。</p> <p>① 小学生は放課後児童クラブの登録児童が増加しています。子どもたちの児童館での滞在時間が短くなる中で、子ども同士が良好な関係を結び、それぞれが豊かな放課後を過ごして成長するために、職員がどのように関わるかという視点で毎日のミーティング・担当者会議等で話し合い、常に支援の方向性を確認しています。</p> <p>② 学年に関わりなく同じ遊びで遊びあう「みんな遊び」を毎月行っています。「みんな遊びは」3年生が中心になって話し合う「3年生会議」で内容やルール等を決めており、子どもたちのやりたい遊びが実現できる取組みになっています。</p> <p>③ 放課後児童クラブ登録児童の増加につれて、登録児童と遊ぶことを目当てにした自由来館の子どもも増えていますが、短い放課後時間の中で子どもが時間に追われず自由に遊べるように、行事やクラブ活動の実施は控えめにしています。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 館のスペースが限られる中で、中・高校生世代の利用の促進に向けた努力をしています。</p> <p>① 「中高生と赤ちゃんのふれあい事業」の実施や中学校の職場体験を受入れる中で、中・高校生世代も児童館の利用ができることを知ってもらい、来館のきっかけとなるように働きかけています。また、児童館だよりやパンフレットにも中・高校生世代も児童館を利用ができることを表記して広報しています。</p> <p>② 中・高校生世代に向けた切り絵活動を月に1回実施しています。参加している子どもたちはオリジナルの原紙を作ったり、仕上げの仕方を工夫したりするなど、自主的に取り組んでいます。完成した作品は、児童館が毎年秋に実施している文化活動「かみがも美術館」に中高生コーナーを設けて展示しています。中・高校生世代の精巧な作品は、小学生の憧れとなると同時に良い刺激になっています。</p> <p>③ 館のスペースが限られているため中・高校生世代の専用スペースが確保できず、卓球などのスポーツ活動は制限がある状況です。そのため、午後5時30分以降は2階を使えるようにして、少しでもスペースを広げる工夫をしています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 3年生会議や高学年対象のクラブ活動などの子どもが意見を述べ、主体的に活動する取組みがあります。</p> <p>① 子どもの権利擁護や職場倫理については京都市児童館活動指針、法人の「職場倫理マニュアル」に拠っており、職員全体で確認する機会をもっています。また、法人の研修会に参加したり、各自で「倫理チェックリスト」による自己点検を行ったりして常に意識づけを心がけています。</p> <p>② 法人の利用者共通アンケートを子どもたちにも実施しています。実施の際には、設問の意味や意図を職員が説明し、子どもたちの思いがアンケートから読み取れるように書いてもらいます。そして、その意見が事業などに反映できるよう努めています。</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

	<p>③ 日頃の子どもとの遊びや会話をとおして、子どもと信頼関係を結び、話しかけやすい関係づくりを行うことを心がけています。子どもの様子の変化や困りごとなどが見受けられたり、子どもから相談があったりした場合にはすぐに対応できるようにしています。</p> <p>④ 3年生対象の「3年生会議」では、自分たちの状況にあった月の目標を決めてもらったり、みんな遊びの内容を考えたりしています。4年生以上の「なんでもクラブ」では自分たちで年間活動案を立案し、実行しています。子どもたちがやりたいことを考えて主体的に取り組む活動が行われるなど、子どもの意見が活動に反映され運営しています。</p>																
7	<p>配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 488 1332 533">1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td> <td data-bbox="1332 488 1495 533">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 533 1332 600">2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している</td> <td data-bbox="1332 533 1495 600">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 600 1332 672">3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている</td> <td data-bbox="1332 600 1495 672">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 672 1332 741">4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく</td> <td data-bbox="1332 672 1495 741">○</td> </tr> </table> <p>【講評】</p> <p>京都市児童館活動指針の統合育成の考え方を元に、保護者と信頼関係を築き、連携した支援を心がけています。</p> <p>① 配慮を要する子どもと家庭の対応は、放課後児童クラブ登録児童の場合が多くなっています。保護者とは個人懇談やお迎えの際に児童館と家庭での子どもの様子を相互に伝えあうことで情報交換し、信頼関係を築いて日常的に相談がしやすい雰囲気を作ることを心がけています。</p> <p>② 障害のある子どもの対応は、京都市児童館活動指針に示されている統合育成の考え方に拠っています。日常的に介助者を導入し、どの子どもも分け隔てなく、無理のない形で放課後の時間を過ごせるように支援しています。</p> <p>③ 職員会議、担当者会議、介助者会議、ミニミーティングなどの小まめな会議体系があり、それぞれの会議で職員が子どもの支援について意見を出し合いう環境です。特にミニミーティングは昼の時間帯など、隙間時間を使って、その日配慮すべき事項、特に伝えるべき事項について職員間で情報を共有する大切な会議です。また、特に気になる児童に関しては、学校と連携をとりよりよい対応のために協議をする関係があります。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○	3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○	4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく	○								
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○																
2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○																
3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○																
4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく	○																
8	<p>地域の子どもの育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="225 1335 1332 1379">1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td> <td data-bbox="1332 1335 1495 1379">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1379 1332 1424">2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている</td> <td data-bbox="1332 1379 1495 1424">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1424 1332 1469">3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td> <td data-bbox="1332 1424 1495 1469">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1469 1332 1514">4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている</td> <td data-bbox="1332 1469 1495 1514">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1514 1332 1559">5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている</td> <td data-bbox="1332 1514 1495 1559">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1559 1332 1603">6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている</td> <td data-bbox="1332 1559 1495 1603">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1603 1332 1659">7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある</td> <td data-bbox="1332 1603 1495 1659">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="225 1659 1332 1704">8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している</td> <td data-bbox="1332 1659 1495 1704">○</td> </tr> </table>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○	4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○	5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○	6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○	7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○	8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○																
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○																
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○																
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○																
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○																
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○																
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○																
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○																

<p>【講評】 「上加茂子育てネットワーク」を立ち上げ参画団体と連携して子育て支援事業を行っています。</p> <p>① 主任児童委員を中心として行う「子育てサロン」の実施場所として児童館を提供し、地域の方と乳幼児と保護者の交流や保護者相互の仲間づくりの場を届けています。児童館職員も参加・協力したり、備品の貸し出しをしたりしています。必要な際にはプログラム提供を行うこともあります。</p> <p>② 小学校には「児童館だより」、「学童だより」を提供し、小学校からは「学校だより」、「学年だより」をいただくことで、相互の行事情報などの交換をしています。気になる子どもや家庭の情報交換は、担任教師の来館や電話などで随時必要に応じて行うことができる関係ができています。</p> <p>③ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして「上加茂子育てネットワーク」を構築しています。この事業の一環で、地元こども園と合同で上加茂神社境内や児童館前の公園で「遊びの会」を年3回実施し、親子が身近な地域の中で遊ぶ体験を提供しています。子育ての地域への社会化を進め、子育てを地域全体で支えるという気運づくりに役立っています。</p>		
9 子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている		
1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している		○
2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している		○
3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している		○
<p>【講評】 地域の方が児童館の花壇整備を行ったり、元利用者のボランティアがあつたりなど、児童館とのいい関係ができています。</p> <p>① 地元NPOと協働したエコアクションとして、毎月1回子どもたちが公園の清掃活動に取り組んでいます。また、「かみがお楽しみランド」では、子どもたちがお店屋さんのコーナーを設置しています。子どもたちはこうした活動をとおして、他者から感謝されたり、達成感を感じたりする体験をして自己肯定感を高める機会になっています。</p> <p>② 元幼児クラブの利用保護者が、同世代の保護者との繋がりを持つことを目的に「ベビーマッサージ」「リトミック」「産後ヨガ」などの得意な技術を生かせる母親サークルを立ち上げて、現役世代の保護者にプログラムを提供しています。</p> <p>③ 地域の方々が児童館の花壇の世話や草取りなどで気軽に訪れ、作業をしてくれています。また、元放課後児童クラブの利用児童だった大学生が介助のボランティアを始めるなど、利用者が児童館に関わる循環ができていたり、児童館を支援することで地域の子どもの育成に関わるという住民の意識があります。</p>		

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】		
1 放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している		
1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている		○
2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している		○
3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている		○
2 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている		○
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		○

3 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○
<p>【講評】</p> <p>子ども、保護者に丁寧な対応を行い、安心して通い生活する居場所になっています。</p> <p>① 放課後児童クラブ登録児童は、児童クラブでの生活の流れの中で自由来館児童と分け隔てなく一緒に遊ぶ環境があり、職員も必要に応じて子ども同士の関わりの支援をしています。また、登録、自由利用の制限がなく一緒に参加できる行事等を実施して直接交流できる機会も持っています。</p> <p>② 放課後児童クラブの申請前に「登録説明会」、申請後に「入会説明会」を実施しています。説明は「学童クラブのしおり」を配布し、資料に沿ってクラブの育成方針や生活の流れ、必要な準備物、緊急事態の際の連絡方法、個人情報の取扱い等について説明を行っています。特に個人情報の取扱いについては、説明に納得いただいたうえで同意書をいただいています。</p> <p>③ 定型の児童台帳を整備し、支援に必要となる登録児童の詳細情報を保護者に記入・提出していただいています。資料はファイリングし、個人懇談などで得た情報や要望、相談事項はさらに追記して職員が情報共有を行う資料になっています。</p>		

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録		
1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている		
1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している		○
2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している		○
3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○
4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している		○
<p>【講評】</p> <p>特に配慮を要する児童・家庭の支援は個別に記録や相談を行い、家庭とともに支援を行う体制があります。</p> <p>① 配慮を要する児童・家庭の支援は主に放課後児童クラブで行うことが多くなっています。個別に子どもの現在の状況やニーズを聞き取り、児童台帳への書き込みや児童の状況報告書の作成などの記録を行っています。また、日常の記録は日誌に特記し、必要に応じて個人記録に引き継いでいます。この情報を職員間で共有して個別支援の充実に繋げています。</p> <p>② 配慮を要する児童・家庭の支援などをテーマにした研修会に参加し、周辺知識の理解と習得に努めています。また、北区児童発達支援部会に参加し、他施設・機関の職員と意見交流などを積極的に行っています。実務としては、京都市児童館学童連盟の統合育成に関わる先生とケース検討や相談ができる機会を持っており、実際のケースのアドバイスから学びを得るとともに支援に役立てることができています。</p> <p>③ 担当者会議、介助者会議で支援について検討しています。日常的にはミーティングで職員間での情報共有を行い、共通認識のもとで支援しています。家庭とは日常のお迎えの際などの会話や必要に応じて個別に相談しながら連携をして支援を行っています。</p>		

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重		
1 子どものプライバシー保護を徹底している		
1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○

	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○
2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
	1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
	3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○
<p>【講評】</p> <p>子どもの尊厳や権利の保障を的確に行うとともに、職員の日ごろの確認も実施してよりよい子どもの支援に努めています。</p> <p>① 個人情報の取扱いについては、放課後児童クラブの入会説明会で保護者に説明をして、同意書をいただいています。利用の必要が生じた際にはあらためて保護者の同意を得てから行っています。例えば、配慮を要する子どもの受け入れの際には、保護者の同意を得たのちに保育所に見学に行き、予め保育士と情報交換を行って支援に役立てるようにしています。</p> <p>② 子どもに対して個別の指導が必要な際は、事務室などを利用して他の子どもの視線から遮って行うことで、その子どもの尊厳を守っています。また、着替えなどは男子には男性職員、女子には女性職員が対応するように配慮しています。</p> <p>③ 法人が制作した職場倫理マニュアルを職員に徹底して子どもへの対応にあたっています。倫理チェックリストでセルフチェックするとともに、子どもへの対応で気になることがあった際には、職員間でお互いに話し合いができる関係にあり、常に子どもの側にたった支援を行うことを心がけています。</p>		

6 事業所業務の標準化

1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している	○
	2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している	○
2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

<p>【講評】</p> <p>京都市児童館活動指針を手引きにし、確認をしながら事業計画などを検討、立案しています。</p> <p>① 児童館の基本的な活動の手引きに「京都市児童館活動指針」を位置づけ、事業計画、活動報告などの作成の際に参照して、一つひとつの事業の意義や目的を確認して検討しています。また、法人として「振り返り個票（活動記録紙）」を整備し、活動の際に次年度に修正すべき点も含め記録を取り、常に問題意識をもって事業運営に取り組んでいます。</p> <p>② 法人の利用者共通アンケート、日頃の子どもや保護者の意見などを収集し、毎年総括を行った上で、次年度計画の策定をしています。</p> <p>③ 4月、9月、1月に職員等に館長がヒアリングを行っています。1月の人事考課の際には、職員が自己評価に取組みます。ヒアリング後に自己評価に対するフィードバックを行うことで、職員の気づきと資質の向上に繋げています。</p>

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる		
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権を設定している		○
2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している		○
2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている		○
<p>【講評】</p> <p>情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています</p> <p>① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。</p> <p>② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。</p> <p>③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。</p>		

総評

■特に良い点

ポイント1	<p>近隣の資源を活用して、利用児童と地域との関わりの機会をつくり、地域の子どもの育成に対する意識も高めています。</p>
	<p>児童館前の公園で遊ぶときには、公園に遊びに来ていた他の子どもや地域の方も巻き込んで一緒に遊ぶように働きかけ、子ども同士の交流をすすめたり、児童館の周知に繋がったりしています。そのこともあって、公園で遊んでいる一般の子が、ケガや困りごとがあると児童館を頼りにして来館するようになっていきます。また、地域の方々が児童館の花壇の世話や草取りなどで気軽に訪れ、作業をしてくれています。地域資源を活用して活動を外に広げたり、外部の力を借りることは、館内に留まりがちな児童館利用児童の地域との関わり合いを生み、子どもの多様な体験と地域の子どもの育成に対する意識を高めることに繋がるものと思われます。</p>
ポイント2	<p>子どもの意見を取り入れ、子ども主体の活動となるよう支援に努めています。</p>
	<p>毎月実施する「みんな遊び」は、3年生が中心の「3年生会議」で企画やルールについて話し合っ、学年に関わりなく、参加したい子ども全員で遊んでいます。また、4年生以上が対象の「なんでもクラブ」では「何をやるか」「どうやってやるか」をクラブのメンバーで話し合い、やりたいことを実現できるシステムです。これまでお出かけ行事やスライムづくりなどを行っており、子どもの意見を積極的に取り入れる仕組みです。また、法人共通の「利用者共通アンケート」を子どもにも行っていますが、実施の際には、設問の意味や意図を職員が説明し、子どもたちの思いがアンケートから読み取れるように書いてもらいます。子どもたちが考えて実現したり、意見を述べたことが運営や事業に反映されることは、子どもの主体性を高めることに繋がると思われ、今後も一層進めていただくことが望まれます。</p>
ポイント3	<p>職員会議、担当者会議、介助者会議、日々のミーティングなど、こまめな打合せによる個別支援をスムーズに行う体制があります。</p>
	<p>気になる子ども、特に配慮を要する子どもの支援については、担当者会議、介助者会議で検討しています。日々の子どもの状況については日常的にミーティングで職員間の情報共有を行い、職員によって対応に違いが出ないように共通認識のもとで子どもと家庭の支援を行う体制です。資料や記録は個別にファイリングしています。児童台帳で子どもの詳細情報をいただき、保護者との日々の会話や懇談・相談などで生じた追加の情報は書き加えられます。また、法人共通の日誌のシステムに記録されることにより、子ども別の記述が容易に取り出すことができるようになり、会議や支援の際に役立っています。保護者や学校と連携を深め、子どもが安心して放課後の生活を送ることができる環境の設定に努めています。</p>

■改善が望まれる点

ポイント1	小学生の自由来館を促すための一工夫に期待します。
	児童館の核となる小学生の利用は、放課後児童クラブの登録児童が多いこと、平日の放課後の時間が短くなっていることから、日々利用の自由来館児童の数は、微増しているとはいえ多くはありません。児童館前の公園を活用しての一般の子どもとの関わりや、児童館を当てにして公園利用中に助けを求めて来館があることから、広報などで来館を積極的に促すなどとともに、自由来館児童が日ごろから居やすい場所となり、地域の多くの子どもの利用に供することが望めます。積極的に放課後児童クラブ登録以外の小学生との接続をし、地域の子どもたちに児童館での友だちとの遊び、交流を経験して欲しいと思います。
ポイント2	中・高校生世代の利用促進のための取組みが望めます。
	中・高校生世代向けに行っている切り絵活動の成果を児童館の文化活動「かみがも美術館」で展示して中・高校生世代の精巧な作品が小学生の憧れや刺激になっています。また、中学校との連携による「中高生と赤ちゃんのふれあい事業」が行われたり、放課後児童クラブ出身の子どもが職員と話をするために来館したりしています。このことなどから、ボランティアとしての関わりやこの世代が興味関心のある活動を取り入れて、来館のきっかけづくりと来やすい居場所づくりをすることで利用促進が図られることも考えられます。また、中・高校生世代向けの広報づくりや媒体の選択なども検討することができそうです。まずは「なんでもクラブ」出身者を中学生利用に繋げたり、イベント参加などをきっかけにして来てもらったりすることを意識することも考えられます。